

プログラム名		にげるバッタ 秋の草まで							
対象年齢		年 長 (5～6歳)							
ねらい	メッセージ	バッタとカマキリの関係を知ろう。秋の草花を知ろう。							
	発見・体験できること	<ul style="list-style-type: none"> にげるバッタの気持ちと追うカマキリの気持ち 捕食の関係 秋の草花(木)の名前、感触など 							
参加者のめやす		幼児 25人 / 支援者 2人							
実施時間		30分							
フィールド									
		森・社寺林公園	山・里	川	湖・池	田畑・野原	園庭・公園		
実施可能時期									
自然を感じるためのヒント									
時間		活動				配慮・アドバイス アレンジ			
導入		遊びの説明やルールを聞く				<p>ウルシ、いばらの木に注意します。行動の範囲を確認します。</p> <p>いろいろな場所にいろんな植物があることを確認しましょう。</p> <p>草木のある場所を指差し、それぞれの名前を確認します。</p> <p>全員が草木の名前と実物が一致するように配慮し、言葉かけをします。</p>			
10分		周りの植物を見てまわる							
5分		草木の名前を確認し合う。 (ススキ、セイタカアワダチソウ、ハギ、マツ)							
						 <p>この花、「ハギ」って言うんや!</p>			

時 間	活 動	配慮・アドバイス アレンジ
15分	<p>花おにをする。</p> <p>1. バッタになって指定されたパネルの植物のところに行きかくれる(ふれる) (ススキ、セイタカアワダチソウ、ハギ、マツの4種類)</p>  <p>2. 支援者がカマキリになってバッタを追いかける</p> <p>3. カマキリにつかまったら、バッタとカマキリと交代する</p> <p>ふりかえり</p>	<p>バッタになりきれるように、その場で一度やってみます。</p> <p>子どもたちがイメージするバッタを紹介し、自分らしいバッタになり、植物にかくれ、なりきれるように配慮します。</p>  <p>かくれた場所の植物を見たり触ったり、においをかいだりして感触を知り、楽しめるようにしましょう。</p> <p>カマキリが空腹でバッタを追いかけてきたことを一人ひとりがイメージをもって楽しめるように配慮します。</p> <p>カマキリに食べられたバッタは土になるという設定で、木の元にその回のゲームがおわるまで休むのもよいでしょう。</p> <p>補食の関係を伝えましょう。 (例)「バッタはカマキリに食べられるよね。バッタは何を食べるの?」「草」「カマキリを食べるのは?」「鳥」「鳥はミミズなんかも食べるよね。じゃみんなを食べる生きものは?」「ライオン」「サメ」「みんなを食べる生きものは、あまりいないよね。そのことも知っておいてください」</p>
<p>【異年齢への対応】</p> <p>4歳児：バッタになって草木を探し、五感で感じてみましょう(形、におい、感触)。</p> <p>3歳児：バッタのお面をかぶり、バッタになりきって草木の周りを一緒に探検してみましょう。</p> <p>1～2歳児：草木の周りを一緒に探検してみましょう。</p>		
<p>【園や家庭に帰ってから】</p> <p>家庭や園でバッタやカマキリを飼育してみましょう。</p> <p>バッタとカマキリの関係から、自分が食べている食物の連鎖について考えてみましょう。</p>		
準備物・教材等	<ul style="list-style-type: none"> 植物の写真のパネル 本物のバッタ、カマキリ 	

